

公益財団法人国際文化フォーラム

2013 (平成 25) 年度事業計画書



2013 年度は、TJF が開発し世の中に送り出してきた事業や提案を実践につなげる仕組みづくりに取り組みます。また、TJF の活動に対する共感を広げ、それを力に変えていくことに尽します。

TJF の提案を実践につなぐ

■好朋友マスターティーチャーによる全国展開(公1)

TJF はこれまで、東北三省(吉林省、黒龍江省、遼寧省)における、『好朋友』を使った日本語教育の促進に力をいれてきました。『好朋友』が外語教学与研究出版社(北京)から正式出版され、市販化された現在、中国各地の学校での使用が期待されます。『好朋友』は、学習者参加型の活動を中心とした日本語の新しい学び方を提案しています。また、『好朋友』が使われる日本語クラスは、当初の予想と異なり、必修科目、選択科目、課内クラブなど履修形態、学習時間もさまざまであることがわかりました。

2012 年度は、『好朋友』を使った日本語教育の実績がある東北三省から選ばれた教師 5 名が、こうした状況を踏まえた参考カリキュラムの開発を行いました。2013 年度は、5 名の教師がマスターティーチャーとして、吉林省長春市と上海市で行われる研修の講師を務めるとともに、各地域での巡回指導やワークショップを担当し、『好朋友』の中国全土への拡大をめざします。

■「学習のめやす」の提案を広める(公2)

2012 年 3 月に発行した『外国語学習のめやす 2012』(以下、「めやす」)は、同年 11 月に 5,000 部の無料配付を終了しました。終了後も各方

面からニーズがあることを踏まえ、『外国語学習のめやす』とタイトルも新たに、3,000 部の市販版を作成しました。

「めやす」を手にし、総合的なコミュニケーション能力の育成をめざした新しい外国語教育の提案に賛同する人が増えながらも、この考え方が中国語と韓国語以外の外国語教員にはまだ十分広まっていないのが現状です。また、クラスでの活用につなげるための研修やワークショップも不足しています。こうした課題の解決に向け、2013 年度から 2014 年度にかけて、以下のことを実施します。

①「外国語学習のめやす」セミナーの開催

「めやす」の監修者である當作靖彦教授(米国カリフォルニア大学サンディエゴ校)を講師に迎えて、大学や各都道府県教育委員会等とセミナーを企画・実施します。テーマを「めやす」開発の背景となっている、新しい外国語教育理論(ソーシャル・ネットワーキング・アプローチ:SNA)やグローバル時代の人材育成とし、より多くの人に「めやす」の理念や方法論を共有してもらうことをめざします。當作靖彦教授に執筆を依頼し、SNA の理論をまとめた出版物も制作します。

②「学習のめやす」を取り入れた授業ができる教師の育成

全国各地で開催予定の講座やワークショップに参加してもらうことで、「めやす」を取り入れた授業づくりができる教師の育成を図ります。2013 年度は講座やワークショップの講師となりうるマスターティーチャーの養成および講座のテキストとなる教本づくりに取り組みます。さらに講座やワークショップの受講が資格の取得につながる制度づくりに挑戦します。

■協働を生み出すプログラムづくり(公3)

沖縄、大阪、台湾の高校と協力して、ICT を利用した継続的な交流活動を取り入れながら、コミュニケーション力と協働力を育成するための外国語教育のカリキュラム開発を行ってきました。2013 年度は、カリキュラムと実践の質の向上をめざす一方、一年間の授業の流れ、具体的な内容と手順、配布物、評価などをわかりやすく提示し、多くの教育関係者と共有するための作業を進めます。また、教員を対象に、コミュニケーションや協働力の育成に必要な理論や方法論を学ぶレクチャー&ワークショップを実施します。

互いのことばを学ぶ環境づくりをめざした交流

TJF は、日本における中国語と韓国語教育を促進するとともに、隣国である中国や韓国の日本語教育をサポートする事業を進めてきました。2013 年度は、両者に関わる校長や生徒たちの交流事業を実施します。

①隣語実施校の校長交流プログラムの実施(公2)

日中の高校で中国語、日本語教育を定着させるためには、校長をはじめとする管理職の理解が重要です。これまで、それぞれの校長を招聘・派遣するプログラムを実施してきましたが、2013 年度からは、双方の交流を図ることで、互いの言語を学ぶ環境を整備していきます。

②互いの言語を学ぶ、日韓・日中の交流プログラムの実施(公3)

2007 年度から実施している「互いのことばを学ぶ日中高校生のサマーキャンプ」の会場を長春から上海に移して実施します。現在の日中関係を考慮し、

実施は例年の8月ではなく、2014年3月を予定しています。中国政機関からの委託事業として実施する本事業につきましては、主催者の意向等により、実施を見送ることも想定されます。

2012年度から開始した日韓の中高校生の交流プログラムの第2回を、参加者を拡大して(日韓ともに15名)ソウルで実施します。

いずれも互いのコミュニケーションに必要な中国語・韓国語・日本語を習得する授業と、学んだことばを使つての共同活動を行います。多様な人との関わりのなかで課題を解決しながら、新しいものやアイデアを創りだす力を身につけることをめざします。

TJF の活動への共感の輪を広げる

TJF では財団の活動に対する共感を、より幅広い方々により強く持っていただくために、「コラボレーター制度」を新設するとともに、TJF の公式 facebook ページを立ち上げ、TJF の事業にまつわる日々のエピソードを発信しています。

2013 年度は、さらにその輪を広げることをめざし、ソーシャルメディアなど多様な媒体を利用した情報発信、多くの人が財団の活動に直接参加できるような機会の提供(セミナーの開催など)とともに、共感を寄付や力に変える仕組みを導入していきたいと考えています。

2013 年度の事業一覧及び各事業計画概要

公 1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

1. 中国における二外日本語教育の促進(定期事業)
2. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりつくにっぽん」の制作・運営(定期事業)
3. 米国ウィスコンシン州メナーシャ地区日本語教育支援(継続事業)
4. 日本語教育・日本理解事業に関するネットワーク活動(定期事業)

公 2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

1. 「外国語学習のめやす」セミナー・講演会の共催(新規事業)
2. 「外国語学習のめやす」カリキュラムデザイナー制度の構築(新規事業)
3. 「外国語学習のめやす」の広報活動(定期事業)
4. 隣語実施校の校長交流の実施(定期事業)
5. 隣語教師研修の実施(新規事業)
6. 隣語講座の開催(定期事業)
7. 外国語関連情報提供サイト「Ringo」の制作・運営(定期事業)
8. 外国語教育・多文化理解事業に関するネットワーク活動(定期事業)

公 3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業

1. 世界の中高校生の交流サイト「つながー」の運営(定期事業)
2. 協働を生み出すプログラムの開発(継続事業)
3. 日中の高校生サマーキャンプの実施(定期事業)
4. 日韓の中高校生交流の実施(継続事業)
5. 交流事業に関するネットワーク活動(定期事業)

公 4 TJF の広報活動

1. 機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営(定期事業)
2. 事業報告と広報資料の作成(定期事業)
3. ウェブサイトの運営(定期事業)
4. 支援者獲得のための広報活動(新規事業)

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
公1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業				43,634,847 円 (内、公1共通費用*22,827,623円)
1 中国における二外日本語教育の促進 (定期事業) 9,608,555円	通年	中国吉林省、上海市ほか	2010年度より東北三省の日本語教員とともに、中高校における第二外国語としての日本語(以下、二外日本語)の授業の開設と、その教材となる『好朋友』の導入を推進してきた。その結果、各省に拠点となる学校ができた。今後、東北三省の日本語教員と拠点校の日本語教員が中心になって、『好朋友』を使った日本語教育を推進していくため、2013年度からは、拠点校の教員が日本人日本語教育専門家とともに講師を担当する研修を実施する。 『好朋友』第1～2巻が外語教学与研究出版社(北京)から正式出版されたことを受け、2013年度は中国全土を対象に同教材を使った日本語教育を推進する。8月に吉林省長春市で実施される中等日本語教育課程設置校校長フォーラムで広報を行うほか、新たに二外日本語を開設した学校の日本語教員向けの研修を2014年2月に上海市で実施する。	助成:三菱UFJ国際財団(申請中) 協力:遼寧省基礎教育教學研修センター、吉林省教育學院、黒龍江省教育學院ほか(以上、予定)
2 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の制作・運営 (定期事業) 7,590,664円	通年	TJFサイト、東京、豪州、米国ほか	2012年度にウェブサイトのリニューアルオープンした。メインコーナーの「My Way Your Way」では、いま日本で話題になっていることと、それに関わる人たちの考え方や生き方を発信している。そのほか、日本に暮らす高校生と大学生レポーターの視点からさまざまな行事を紹介する「1/365」コーナーや、日本に旅行や留学でやってきた中高生や大学生がおもしろいと思ったことを写真で紹介する「何これ?マジコレ!」コーナーなどがある。 2013年度は、国内外で教師研修等の機会を利用して積極的に広報活動を展開する。7月初旬に豪州で行われるAustralia Federation of Modern Language Teachers AssociationsとThe Japanese Studies Association of Australiaの学会で発表するほか、アメリカの教師会と連携してワークショップを実施する。 明治大学国際日本学部の横田ゼミと連携しながら大学の文化関連講座での「くりっくにっぽん」の活用法を探り、その成果をパッケージ化して他大学でも利用できるようにする。	
3 米国ウィスコンシン州メナーシャ地区日本語教育支援 (継続事業) 2,607,505円	通年	米国ウィスコンシン州メナーシャ市	米国の初等中等教育における日本語教育の拠点地域の存続と発展を図るため、ウィスコンシン州メナーシャ市のメナーシャ合同学区が実施する「21世紀スキルとしての日本語教育プログラム」に対し、2011年度から講談社の特別寄附金として年額200万円を寄贈している。寄附が終了する2013年度は、2月に同市を訪問して、日米の生徒の交流活動や教育基盤の整備の状況などを視察する。	特別寄付:講談社

4	日本語教育・日本理解事業に関するネットワーク活動 (定期事業) 1,000,500円	通年	東京、大阪など	日本語教育学会春季大会(5月・東京)・秋季大会(10月・大阪)をはじめ、日本語教育関連の大会・研究会・会合に参加し、関係者とのネットワークを図る。 また、日本語教育学会、異文化間教育学会、日本コミュニティ心理学会、日本学校教育学会が連繋して実施する多文化コーディネーター育成プログラムのワークショップ運営に協力する。	
公2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業					41,203,228円 (内、公2共通費用*21,354,874円)
1	「外国語学習のめやす」セミナー・講演会の共催 (新規事業) 5,579,940円	①7月、8月、10月 ②7月	①大阪、東京ほか	「外国語学習のめやす」(以下、「めやす」)開発事業は、2012年度をもって終了し、2013年度から普及を目的とした事業を行う。 ①「めやす」の監修者である當作靖彦・カリフォルニア大学サンディエゴ校教授による新しい外国語教育理論(ソーシャル・ネットワーキング・アプローチ)やグローバル時代の人材育成をテーマとした講演会を、大学や各都道府県教育委員会等と企画・実施する。「めやす」が提案するコミュニケーション能力指標(CAN-DO指標)やグローバル社会領域に位置づけられている「協働力」「高度思考力」「情報活用力」などをテーマとした講義および授業実践報告会も実施する。 ②當作靖彦教授に執筆を依頼し、ソーシャル・ネットワーキング・アプローチの理論をまとめた出版物を発行する。	共催:関西大学、上智大学、各都道府県教育委員会ほか
2	「外国語学習のめやす」カリキュラムデザイナー制度の構築 (新規事業) 8,529,886円	①8月、1月 ②通年 ③通年	①大阪、東京ほか	「めやす」を取り入れた授業づくりができる教員の育成に取り組む。2014年度からの育成講座開設に向けて、2013年度は講座を担当するマスターティチャーの養成、教本づくりを行うほか、講座の受講が資格認定につながる制度づくりに取り組む。 ①これまでの「めやす」研修の講師のほか、中国語と韓国語以外の言語教育の研究者や実践者を対象に、「めやす」カリキュラムデザイナー育成講座の講師となりうるマスターティチャーを養成するための研修を実施する。 ②「めやす」カリキュラムデザイナー育成講座のテキストとなる教本を作成する。教本は、講座のテキストとするほか市販する。 ③2014年度に開催する教員向けの講座と、講座受講者を「めやす」カリキュラムデザイナーとして認定する制度の導入に向けて準備を進める。	
3	「外国語学習のめやす」の広報活動 (定期事業) 690,500円	通年	TJFサイトほか	ウェブサイトやメールマガジン等で、「めやす」を使った実践をサポートする素材や情報、関連セミナー等の案内を発信し、教員をサポートするとともに、「めやす」の広報を行う。また、「めやす」関連の出版物の販売を促進する。	

4	隣語実施校の校長交流の 実施 (定期事業) 2,313,380円	①②8月 ③12月	①②中国 長春市 ③東京	①高校中国語教育の定着と拡大のためには、各都道府県教育行政者や学校の管理職の理解と支持が必要である。これら関係者の中国語教育に対する関心を喚起するため、2008年度から、TJFが中国への派遣事業を企画・実施している(主催は中国国家漢弁)。往復国際航空運賃は参加者が負担するが、現地での滞在費は中国政府が負担する。 ②新しい試みとして、上記①を、8月に長春市で行われる中国の日本語開設校の校長ネットワーク年次大会(第3回日本語課程設置校校長会フォーラム)に合わせて実施し、両者の交流を図る。 ③これまで上記①に参加した学校の管理職や教員を中心に、中国語教育に取り組んでいる学校関係者の交流会を引き続き実施する。在日中国大使館教育処の協力を得て、教育処の見学ツアーや中国理解文化ワークショップなども合わせて行う。中国語理解ワークショップは生徒や保護者にも参加を呼びかける。	①主催:中国国家漢弁 協力:文部科学省(予定) 後援:在日本中国大使館教育処、在中国日本大使館、在瀋陽日本総領事館(以上、予定) ②助成:(公財)東華教育文化交流財団、在日中国大使館教育処(申請中)
5	隣語教師研修の実施 (新規事業) 95,072円	7/28-8/17	中国北京市または上海市	2004年から9年間にわたって吉林省の吉林大学で実施した高等学校中国語担当教員研修は2012年度をもって終了し、2013年度から、中国国家漢弁と協力して新たな研修プログラムを企画・実施する。新プログラムでは、日本の教師だけでなく、韓国などほかの国の高校中国語教師との合同研修の実施を企画している。	主催:中国国家漢弁
6	隣語講座の開催 (定期事業) 608,000円	通年	東京、神奈川、千葉ほか	中国語と韓国語の授業が実施されていない高校の生徒を主な対象に、中国語と韓国語を学習する機会を提供する。 ①中国語講座 引き続き桜美林大学孔子学院(神奈川とその周辺地域対象)、ISI国際学院(都内とその周辺地域対象)がそれぞれ実施する土曜中国語講座に協力するほか、新たに千葉県高等学校中国語部会と協力して千葉県内で土曜講座を開催する。 ②韓国語講座 韓国大使館韓国文化院、韓国文化院世宗学堂との講座共催、東京韓国教育院からの講師派遣による拓殖大学第一高等学校の講座実施への協力を継続する。また、2014年度の東京以外の地域での講座開設に向け、関係機関への働きかけを行う。	①共催:千葉県高等学校中国語部会ほか(予定) 助成:在日中国大使館教育処 ②共催:駐日韓国大使館韓国文化院、駐日韓国文化院世宗学堂 協力:東京韓国教育院ほか(予定)
7	外国語関連情報提供サイト「Ringo」の制作・運営 (定期事業) 161,400円	通年	TJFサイトほか	「校長の出番」「先生の輪・話・和」「先輩につづけ」の人物紹介コーナーと、「注目の1校」の文化理解コーナーを中心に、コンテンツの充実を図る。中国語と韓国語の両言語を実施している学校や、両言語に加えて他の言語教育にも取り組んでいる学校を優先的に紹介する。また、Ringoメルマガを通じて、研修やワークショップ等の情報を積極的に発信し、メルマガ登録者を増やす。	

8	外国語教育・多文化理解事業に関するネットワーク活動 (定期事業) 1,870,176円	通年	日本国内各地	ソウルで開催される国際韓国語教育学会のほか、高等学校中国語教育研究会全国大会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)地区別大会、外国語授業実践フォーラム、複言語教育研究会などに参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJFの広報に努める。	
公3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業					43,300,365円 (内、公3共通費用*19,882,123円)
1	世界の中高校生の交流サイト「つながーる」の運営 (定期事業) 1,252,902円	通年	TJFサイト	SNSを使った交流サイト「つながーる」は、2007年度の開設以来、国際交流に関心のある国内外の中高校生、日本で外国語を学習している中高校生、海外で日本語を学習している中高校生たちが、母語や学習言語を使って、さまざまな背景をもつ人たちと知り合い、コミュニケーションする場を提供してきた。 一方、ここ数年のソーシャルメディアの急速な発展に伴い、さまざまなメディアを交流に利用できる環境が整いつつある。2007年度開発当時のシステムを利用する「つながーる」はすでに一定の使命を果たしたと判断し、2013年度内に事業を終了する。本事業を通じて得られた関係者とのネットワーク、デジタルツールの学校への導入に際して必要なサポート、授業での活用方法などのノウハウは、「協働を生み出すプログラムの開発」事業に引き継がれている。	
2	協働を生み出すプログラムの開発 (継続事業) 4,638,297円	通年	沖縄、台湾、東京、インターネットなど	日本の高校生を主な対象として、コミュニケーション力と協働力の育成をめざした交流プログラムや外国語等のカリキュラムを開発、提供する。 ①2011年度から沖縄県立向陽高等学校と協力し、中国語の授業を通じてコミュニケーション力と協働力を育成するカリキュラム開発を行ってきた。このカリキュラムでは、同校と台湾の高雄市立高雄高級工業職業学校(高校)との交流活動を核に、自分や家族を紹介する写真スライド作成、それぞれの街の観光プランのプレゼンテーション、観光PRの映像制作、互いの学校生活をストーリー仕立てで紹介する映像制作などの共同プロジェクトに取り組む。対面での交流のほかソーシャルメディアやTV会議なども活用する。協同プロジェクトに必要な中国語の語彙や表現を学び、それを使ってプロジェクトに取り組むというパターンを積みあげる。2012年度から目標と内容にそった評価も試みてきた。2013年度は、2014年度の成果発表を見据え、これまでの実践をふまえてカリキュラム、評価、プロジェクト活動の内容を改善し、再度実施、検証する。 ②コミュニケーション力や協働力の育成に関する理論と方法論をより多くの教員と共有するため、専門家の協力を得て講義と実践形式の研修を実施する。	①協力: 沖縄県立向陽高等学校、高雄市立高雄高級工業職業学校など

3	日中の高校生サマーキャンプの実施 (定期事業) 13,008,253円	3月、10日間	中国上海市	中国国家漢弁主催の「漢語橋高校生サマーキャンプ」の日本向けプログラムとして、2007年度からTJFは「漢語橋：日本の高校生サマーキャンプ」を企画・実施し、毎年、中国語を学ぶ日本の高校生92名と引率教師・事務局8名を含む計100名を中国に派遣してきた。2011年度より、日本語を学ぶ中国の高校生のためのサマーキャンプを同時に開催し、日中の高校生が、学んでいる中国語と日本語を使ってコミュニケーションし、価値観の違いを調整しながら新しいものを創りあげるプロセスを体験できるプログラムを提供している。 2013年度は、吉林省長春市の日章学園高校から上海市の上海甘泉外国語中学に場所を移して実施する。日本の高校生92名、中国の高校生46名を募集予定。昨年に引き続き、サマーキャンプ期間中の活動で実際に使える中国語・日本語を学ぶ授業と、学んだことばを使って日中の高校生が共同プロジェクトに取り組む活動を中心に実施し、上海市内の高校生の自宅や買い物、観光などにも出かける。 日本の参加者は往復国際航空運賃(ANAの協力による特別価格)、保険料など実施費用の一部を負担。現地での滞在費は中国政府が負担する。	●漢語橋(日本で中国語を学ぶ高校生のためのプログラム) 主催:中国国家漢弁 受け入れ機関:上海甘泉外国語中学(予定) 助成:在日中国大使館教育処(申請中) 協力:文部科学省(申請予定) 後援:外務省(申請予定) 特別協力:ANA ●日本語橋(中国で日本語を学ぶ高校生のためのプログラム) 助成:国際交流基金北京日本文化センター(申請予定)
4	日韓の中高校生交流の実施 (継続事業) 3,175,390円	3月、5日間	韓国ソウル	日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生の交流プログラムを秀林文化財団と共催で実施する。参加者は、日韓の中高校生各15名(好評のため、昨年度より各6名増員)。K-POPダンスづくりなど、中高校生が関心をもつ共同活動を行うほか、期間中のコミュニケーションに必要な韓国語と日本語の表現を学ぶ授業を実施する。日本側参加者は往復国際航空運賃、保険料など実施費用の一部を負担。	共催:秀林文化財団 助成:双日国際交流財団(申請中)、日韓文化交流基金(申請中) 協力:ソウル大学言語教育院(申請予定)
5	交流事業に関するネットワーク活動 (定期事業) 1,343,400円	通年	東京、広島、大阪など	TJFが交流事業を推進していくためには、協働学習、国際理解教育、異文化間教育、情報教育等の分野における国内外の教師や専門家とのネットワークが重要である。海外に日本語教師として派遣された日本の小中高校の教員を主な会員とする国際教育ネットワーク/REX-NETの活動に協力するほか、異文化間教育学会全国大会や日本国際理解教育学会研究大会、協働学習や情報教育関連のセミナーなどに参加し、関係者とのネットワークづくりと情報収集を行う。	
公4 TJFの広報活動					22,199,602円 (内、公4共通費用*9,572,874円)
1	機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営 (定期事業) 3,099,120円	4月、7月、10月、1月	日本国内、海外、TJFサイト	事業と関連するテーマで特集を構成。各号4,500部を発行し、高等学校の中国語や韓国語をはじめとする外国語教育関係者や国際交流団体などの機関に送付する。	

2	事業報告と広報資料の作成 (定期事業) 2,031,860円	①日本語・英語:6月 中国語・韓国語:7～9月 ②9月	日本国内、TJFサイト	①日本語版『事業報告』では2012年度実施事業の成果を報告し、2013年度の主要事業について展望を示す。日本語版800部、英語・中国語・韓国語版を各100部制作し、関係者に配布するとともに、ウェブサイトに掲載して広く公開する。 ②寄付者獲得のためのカラーパンフレット(日本語版)を新規に2,000部制作する。	
3	ウェブサイトの運営 (定期事業) 4,986,748円	通年	TJFサイト	TJFウェブサイトを、広報とファンドレイジングの戦略に基づいてリニューアルする。また、2014年のWindows XPのサポート終了に向けてPC機器を入れ替えるほか、ネットワークの環境整備、セキュリティの強化、アプリケーション環境の統一などを行い、業務の質の向上と効率化を図る。	
4	支援者獲得のための広報活動 (新期事業) 2,509,000円	通年	TJFサイト、東京など	2012年度に新設したコラボレーター制度や公式facebookページの活性化をはかる。これまで直接TJFに関わりのない人たちがTJFの事業に関心を持つようなセミナー等を企画し実施する。 TJFの事業に共感する人たちが寄付しやすい仕組みを導入、整備する。	

*各公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品、賃貸料など)